

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673200374
法人名	有限会社 樫の木
事業所名	グループホーム眺海
訪問調査日	平成 19 年 7 月 12 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 7 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	673200374
法人名	有限会社 櫻の木
事業所名	グループホーム眺海
所在地 (電話番号)	酒田市山寺字宅地159番地 (電話) 0234-62-2730

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年7月12日	評価確定日	平成19年9月7日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,900 円	その他の経費(月額)	15,000円 他
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	65 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	庄内余目病院 岡田内科循環器科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「あなたらしく自由に」「ゆったり、のんびり、ほっとする」「笑顔のある暮らし」をホームの目標とし、主役はあくまでも利用者で、心穏やかに過ごすことを日常生活の中で実践し積み重ねてきているホームです。
積極的にホーム外の研修参加の機会を確保して人材を育成すること、利用者の認知症の進行防止を図るための「学習ドリル」を取り入れることなど、「ケアの質」を更に向上させていくことにも取り組んでいます。
また、本年中にはホームの敷地内にデイサービスセンターや有料老人ホームの開設も予定されており、地域の高齢者や家族を支えていく社会資源としての期待も高まるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である「薬の保管場所と管理方法の検討」については、利用者の目に触れたり、手で触れたりしない事務室の奥で薬を保管・管理するよう改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については職員一人ひとりが評価を行ったうえで、ケアマネジャー、管理者がまとめる形で実施されており、具体的な改善につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を開催しており、この会議を通じて地域や家族からホームへの前向きな協力の姿勢を確認することができた。また、今秋には運営推進会議メンバーの協力を得て夜間の防災訓練を実施する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や運営推進会議等で意見、不満、苦情を聞くように努めており、家族が言いやすい場づくり配慮している。また、公的な機関の窓口についても契約時に家族に説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区のお祭り、小学校の運動会、町内自治会の夏祭りなどにホームからもスタッフが積極的に参加しており、地元の人々との交流を日常的に深めてきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	制度改正による地域密着型サービス事業所として、職員で日常的に話し合いホーム独自の理念をつくりあげており、玄関すぐの目立つ所に貼り出している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、月1回定期的に話し合い、理念に基づいた具体的な実践がなされるよう意見を出し合い確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区のお祭り、小学校の運動会、町内自治会の夏祭りなどにホームからもスタッフが積極的に参加しており、地元の人々との交流を日常的に深めてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員一人ひとりが評価を行ったうえで、ケアマネジャー、管理者がまとめる形で実施されており、具体的な改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催しており、この会議を通じて地域や家族からホームへの前向きな協力の姿勢を確認することができた。また、今秋には運営推進会議メンバーの協力を得て夜間の防災訓練を実施する予定である。		

山形県 グループホーム眺海

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者が月1回定期的にホームへ来所し、利用者についての依頼を受けたり、ホームからも情報提供を行ったり、互いに円滑な連携となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを2ヶ月に1回送付しているが、利用者の様子については毎回違う報告者が手書きで作成しマンネリにならないよう工夫しており、家族にも好評を得ている。金銭管理については領収書を添付し使用状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議等で意見、不満、苦情を聞くように努めており、家族が言いやすい場面づくりに配慮している。また、公的な機関の窓口についても契約時に家族に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの利用者によって「馴染みの関係作り」にかかる時間の差が見られるため、「馴染みの関係作り」がしやすいユニットに異動や採用した職員を配置するなど、利用者の状況に配慮した対応がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、積極的にホーム外の研修参加の機会を確保し、人材の育成に努めている。また、新規採用後1～2ヶ月間は、指導者を決めて知識や技術を習得できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、交換研修を年1回実施してネットワークづくりを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、カラオケやご詠歌を利用者と一緒うたったり、利用者から教わったりしながら、一人ひとりに寄り添い、共に過ごすことを重視した関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を把握するために課題分析方式を工夫し、スタッフやケース担当者が本人の思いや過ごし方の希望などを把握することに努めている。また、意思表示が難しい場合でも、本人の表情や家族から聞き取った内容から、本人本位の視点に立った検討がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活面については利用者本人や家族の意見・要望を採り入れ、また、医療面については協力医療機関から毎月FAXで指示を受け、家族の同意を得たうえで利用者本位の介護計画をチームで作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行い、家族、本人の希望や状態の変化時には速やかに介護計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	ホームの協力医療機関だけではなく、利用者や家族の 希望に応じたかかりつけ医への受診支援を行っており、 歯科、皮膚科、整形外科などの医療機関とも連携が 図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	終末期のあり方については、できるだけ早期から話し合 いの機会を設け、医師にも情報提供して協力体制を整 えている。また、状態変化の都度、家族への連絡や本 人の思いに注意を払いながら支援につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	全ての職員に対し、個人情報保護法の理解に努め秘 密保持の徹底が図られるよう取り組んでおり、入職時に 職員から誓約書の提出を受けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体を基本に、今日はどう過ごしたいかじっくり 向き合い、柔軟に支援するよう努めており、その日の充 実感につながるよう職員が利用者の表情を読み取るな ど、できるだけ一人ひとりの希望に添うよう丁寧な支援 がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れたり、自家製野菜を用いたりしながら、利用者と職員が楽しく食事や準備と片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞きながら入浴を楽しめるよう支援しており、希望があれば毎日の入浴や夜間の入浴もできるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天気の良い時は庭や畑、ドライブ、足湯に出かけて過ごし、天気の悪い時は裁縫、生け花、川柳など利用者とコミュニケーションを保ちながら楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭や畑を眺めに散歩に出たり、外食、買い物など利用者の希望やその日の状況に応じた外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は施錠せずにセンサーを活用しており、外に出て行きそうな利用者には、さりげなく付き添って散歩して帰ってくるといった個別対応がなされている。また、駐在所には徘徊による外出者を見かけた場合の連絡も依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市担当者、地域消防団、自治会の協力を得て避難訓練を年1回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限や水分制限のある利用者の場合は、利用前に医療関係者から栄養指導を受け、調理法や盛り付け量に注意している。また、一日の食事内容・量の記録と定期的な体重測定が行われており、利用者一人ひとりの状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や季節の飾り付けがなされ、大きめのソファが置かれた広くて明るい食堂は、利用者がゆったり過ごせるようになっており、料理する音や食材の香りも感じることができる。また、畳の談話室が別に設けられており、足を伸ばしてくつろげるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台、クローゼットも完備されている居室内は広く、エアコンの温度調節ができるようになっている。また、利用者の希望や状況により畳や手すりを整備し、家族の写真、ダンス、テレビなども持ち込まれており、安全で居心地よく過ごせるよう配慮されている。		